

科 目 名 称	教職実践演習					英語コミュニケーション (教) オフィス情報 (教)
英 文 科 目 名 称	Practical Seminar for Teaching Profession					留学 (教) 医療事務・医療秘書 (教)
科 目 コ ー ド	541230	授業形態	演習	単位数	2	ビジネス・キャリア (教) スポーツ健康 (教)
教 員 氏 名	横堀 仁志		年次配当	2 年次	後期	ホテル・観光 (教) 大学編入 (教)
授 業 概 要	履修カルテや教育実習時の成績・所見などの分析を基に、教職生が教師になった際にスムーズに教員生活をスタートさせるうえで不足していると思われる知識や技術を補完し、定着させることを目的とした授業である。学生同士のディスカッション、模擬授業、経験豊かな中学校教諭経験者の講義などを通じて本授業の目的を達成する。					
授 業 計 画	1. イントロダクション：教職実践演習の目的と意義 2. 教員の役割、心構え、年間計画、校務分掌、学級経営（外部講師による講義） 3. 生徒を動かす（1）：ディスカッション 4. 生徒を動かす（2）：生徒を動かす際の法則 5. 学級を組織する 6. 生徒指導（1）：ディスカッション 7. 生徒指導（2）：生徒とのコミュニケーションを深めるには 8. 地域・保護者との連携 9. いじめをなくすには（1）：ディスカッション 10. いじめをなくすには（2）：いじめの芽を摘み取るには 11. 授業研究（1）：教材研究と分かり易い授業について 12. 授業研究（2）：学習指導案について 13. 模擬授業（1）：学生による授業実践 14. 模擬授業（2）：学生による授業実践 15. 模擬授業（3）：学生による授業実践					
授業時間外の学習	①指定されたテキストの箇所を事前に読み、自分の意見をまとめておく。 （毎週 3 時間程度の学修を想定） ②指導案の作成など、課題を必ず締め切りまでに完成させておく （15 時間程度の学修を想定）。					
授業の到達目標	教職生が新任教員になった際に現場での職務を遂行する上で必要な知識・技能（年間計画の立案、学級の組織、地域・保護者との連携、教材研究、学習指導案の作成、授業実践など）を身につける。					
評 価 方 法	ディスカッションへの参加度（30%）、模擬授業でのパフォーマンス（70%）					
テ キ ス ト	①新版 学級を組織する法則 向山洋一著 学芸みらい社 ②新版 いじめの構造を破壊する法則 向山洋一著 学芸みらい社 ③新版 授業の腕を上げる法則 向山洋一著 学芸みらい社					
参 考 書	使用しない。					
備 考	特になし。					